

令和5年度 第1回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和5年5月31日（水） 14時00分～15時05分
場 所	小牧市役所東庁舎 5階 大会議室
出席者	<p><b>【委員】（名簿順）</b></p> <p>高野 健市 小牧市医師会会長  三輪 雅一 小牧市医師会副会長  竹内 友康 小牧市歯科医師会副会長  堀尾 恭正 小牧市薬剤師会副会長  小島 英嗣 小牧市民病院副院長  寺本 圭輔 愛知教育大学保健体育講座教授  夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部准教授  佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会  土屋 一義 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会  山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長  平田 和代 保健連絡員役員  加藤 陽子 一般公募市民  中島 早織 一般公募市民  青木 翔太 地域包括支援センター  樋谷 瞳 全国健康保険協会愛知支部</p> <p><b>【代理出席】</b></p> <p>戸田 輝子 春日井保健所 健康支援課長</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部長  落合 健一 健康生きがい支え合い推進部次長  野口 弘美 保健センター所長  西村 泰洋 保健センター所長補佐  三枝 尚子 保健センター母子保健係長  宮田 祐子 保健センター 成人保健係主査  長谷川 えい子 保健センター 成人保健係主査  永井 政栄 健康生きがい推進課長  岩下 貴洋 健康生きがい推進課 健康政策係長  小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主査  前川 桂佑 健康生きがい推進課 健康政策係主事</p>
欠席者	なし
傍聴者	0名
配付資料	資料1 小牧市健康づくり推進審議会条例 資料2 委員名簿 資料3 小牧市健康づくりに関するアンケート調査報告書 資料4 アンケート調査報告書（まとめ） 資料5 小牧市健康づくり推進プラン骨子（案） 資料6 策定スケジュール 参考資料 小牧市審議会等の会議の公開に関する指針
1. 開会	(1) 委嘱状の交付 (2) 委員の紹介 ・委員名簿、席次表をもって紹介 (3) 会長、副会長の選任 ・高野委員を会長、竹内委員を副会長として選任（一同異議なし） (4) あいさつ

- ・会長あいさつ
- ・副会長あいさつ

## 2. 議題

### (1) 会議の公開について

- ・ 会議は公開とする（一同異議なし）

### (2) 小牧市健康づくりに関するアンケート調査の結果について 事務局)

- ・ 資料 3、4 をもとに説明

#### 高野会長)

- ・ ご質問をお願いしたい。

#### 三輪委員)

- ・ 朝食を食べる人について、アンケート結果よりも実際にはもっと少ないように感じる。今回は希望者が Web アンケートに回答する形式だったので、回答者に偏りがあるのではないか。

#### 夏目委員)

- ・ 厚労省が発表している結果に比べると、小牧市のアンケート結果の方が、数字がよいように思う。広報や LINE 等で回答者を募集したということなので、意識が高い人が回答したものと思われる。
- ・ ただ、若い人が朝食を食べていないというのは全国とも同じ傾向かと思う。朝食の重要性について、若い人に周知いただきたい。
- ・ 食育について、栄養教諭が足りていない。保育園・幼稚園では食育を知っている割合が高いが、小学校、中学校と上がっていくと食育を知っている割合が減っている。小学生から高校生までにかけて食育を実施していくことが課題なのではと感じた。

#### 三輪委員)

- ・ 中学校の校医をしており、養護教諭の先生から話を聞いたことがあるが、学校としてはアレルギーの食事対応が中心だと言っていた。生活習慣病予防など大事なことができていないのが残念だと思った。

#### 佐藤委員)

- ・ アレルギーの対応については、間違いがあってははいけず、先生が力を注がないといけないことではある。
- ・ 全学校に栄養教諭がいるわけではない。当校は栄養教諭のいる学校なので、栄養教諭がいない学校のことは詳しくないが、栄養教諭が学校を回って食育の授業を行っている。アレルギーについては生死に関わることなので、そこに充てる時間は多くなり、それ以外のことを伝える時間が少なくなっているものと思う。
- ・ 当校では給食の時間を中心に、食育の授業を行っている。

**高野会長)**

- ・ 食育の専門家でなくても、学校の中でどなたかの先生が教えられるといいと思う。

**夏目委員)**

- ・ アレルギーの子どもは年代を問わず増えている。今年 3 月にも食品表示基準の改正があった。アレルギー対応は、命にかかわることなので、現場の先生たちの優先度が高くなるのは分かる。
- ・ 小牧市の近隣の大学に管理栄養士や、管理栄養士を目指している大学生がいるので、小・中学校での実習やイベントの場など、食育に貢献できる場があれば、大学としても喜んで協力したい。

**平田委員)**

- ・ 最初、食育とは何のことか分からなかったもので、食育の内容をもっと広めないといけないと思う。大人も含めて食育について教育できる場があるといい。

**加藤委員)**

- ・ 子どもへは食事の際にあいさつをするように伝えるし、行事食についても大切さを伝えるが、大人になると、食事の際のあいさつも、行事食を食べることもおろそかになる。
- ・ 学校での子どもの食育がアレルギーに偏っているという話であったが、私自身過去の仕事で、子どもがアレルギー症状を起こす状況に遭遇したこともあり、アレルギー対応が優先されるのも理解できるし、それも大事なことだと思う。

**高野会長)**

- ・ 食生活についての啓蒙は、子どもだけでなく、大人にも広める必要があり、家庭での教育も大事かと思う。

**竹内副会長)**

- ・ 歯の健康について、歯科医としての感覚では、歯科を受診する理由として、知覚過敏も多いと思う。その他の回答に含まれるのではないかと思うので、その他の内容も見ていただきたい。
- ・ 同じく歯科を受診する理由として、歯周病が 7.2%というのも少ないと思う。成人の 80%が歯周病といわれているので、もう少し割合は高いのではないか。

**高野会長)**

- ・ オーラルフレイルの診察についてはどうか。

**竹内副会長)**

- ・ オーラルフレイルについては、力をいれていかないといけないが、まだあまりできていない。
- ・ 治療はなかなか難しく、検査でオーラルフレイルを発見することはできるが、どのような形で治療するかは検討最中である。

事務局)

- ・ オーラルフレイルだけでなく、通いの場（サロンなど）でフレイルチェックをする中にオーラルフレイルの項目も入っている。
- ・ オーラルフレイルを予防するために、地域包括支援センターと一緒に、パタカラ体操やあいうべ体操などの普及啓発に取り組んでいる。

高野会長)

- ・ 運動についてはどうか。

寺本委員)

- ・ 30代、40代など働き盛りの人の運動の割合が少ない。
- ・ 小牧市にはいいスポーツ施設もあり、環境がよいと思うので、運動施設の無料開放をして、運動できる環境をつくることも大事だと思う。
- ・ Switchなどのゲーム機を活用しながら、子どもも親も一緒に運動できるようなイベントをしたらよいのではと思う。Switchなどを活用すれば家でも運動できるようになるのではと思う。

高野会長)

- ・ 睡眠、心の健康などはどうか。

寺本委員)

- ・ 幸福度について、10～20代で0点が突出して多いのが気になった。具体的な対策は思いつかないが、そこは重視する必要がある。

加藤委員)

- ・ 資料3の51ページをみると、高校生の幸福度の平均は、一般市民で最も低い働き盛りの40代の幸福度の平均よりも低くなっている。何とかならないのかと思った。

中島委員)

- ・ 私の子どもはまさにこの世代であるが、何年かあとに質問されたらまた異なる結果になると思う。コロナ禍で、修学旅行も、体育祭もなくなり、何も楽しいことができなかったことが影響しているのではと思う。

高野会長)

- ・ 70代は幸福度が高いのだなと思った。

加藤委員)

- ・ 私も70代に近いので、そのように思う。幸福度について、市の方針があればお伺いしたい。

事務局)

- ・ 今のところはお説明できるものがない。

(3) 小牧市健康づくり推進プランの骨子案について  
事務局)

- ・ 資料5をもとに説明

山田委員)

- ・ 基本目標で健康寿命の延伸となっているが、平均寿命が毎年伸びているので、何もしないと健康寿命との差が縮まらない。平均寿命との差を埋めることを意識することも重要である。
- ・ 小牧市でも特定健康診査をされているが、厚労省が発表した資料によると、2019年の全国受診率は55.6%と全国的に低くなっている。特定健康診査の受診率を高めるという目標も入れたほうがいい。

高野会長)

- ・ 全国的に特定健康診査の受診率は低い。事務局として具体案はあるか。

事務局)

- ・ 健診を受けていただきたいことはさまざまところで周知しているが、なかなか浸透せずに苦労している。広報や個別通知で周知しているが、よいアイデアがあればご意見いただきたい。

(4) その他

事務局)

- ・ プラン策定スケジュールについて、資料6をもとに説明

3. 閉会